

# 第70回日本ハンドボール選手権大会（男子の部）

## 戦況用紙

日時 2019年2月3日（日）

場所 山鹿市総合体育館（Aコート）

回戦 決勝

A 23 豊田合成 (JHL) ○ 30  $\begin{pmatrix} 16 & - & 12 \\ 14 & - & 14 \end{pmatrix}$  26 ● トヨタ車体 (JHL)

戦況	前半	豊田合成が水町のカットインシュート、G Kで藤戸の好セーブから速攻で加点すれば、トヨタ車体も高智のカットインシュート、渡部のサイドシュートで取り返す一進一退の攻防が続く。7分過ぎから、豊田合成がG K藤戸の3連続好セーブで流れを掴むと、樋口や趙のミドルシュートなどで10分までに7-3と試合の主導権を握る。その後もポストを有効に使う豊田合成、高智らバックプレイヤーのカットイン中心で加点するトヨタ車体が加点していく。一時はトヨタ車体が2点差まで詰め寄るが、退場者を出した際に豊田合成は樋口のみドル、ロペスのカットインなどでリードを広げ、豊田合成が4点リードして前半を終了する。
	後半	開始早々トヨタ車体は退場者を立て続けに出す苦しい展開。それでも、甲斐の好セーブと、7mTを2本止めた加藤の両G Kの踏ん張りで何とか食らいつく。守りから攻撃のリズムが徐々にかみ合い、渡部の連続サイドシュートなどで、15分過ぎに20対21と1点差に迫る。対する豊田合成はG K藤戸の好守とディフェンス陣のフットワークでボールを奪うと、出村のサイドシュート、水町、趙の速攻などで3連取、21分過ぎには25対21と再びトヨタ車体を突き放す。やや焦りの見え始めたトヨタ車体のディフェンスが前のめりになると、その裏をP V橋本が素早い位置取りでポストシュートを放つ。トヨタ車体も、渡部のサイドシュート、吉野のみドルシュートなどで反撃するが、流れを変えることはできずタイムアップ。豊田合成が初の戴冠を決めた。最優秀選手は、好守に活躍した豊田合成・水町孝太郎が獲得した。

記入者

今田 隆恵

☆延長、7mTCの場合、下記行を挿入して使用ください。

1延長 -

2延長 -

7mTC -

※延長戦の得点は総得点に加算、7mTCは加算しない。